

「稼げる未来の地茶園セミナー」事例発表

次世代につなぐ農業を

農事組合法人 川根美味しいたけ
代表理事 西原 睦実

1. 農事組合法人川根美味しいたけの紹介
2. 経営概要
3. 地域の課題
4. 課題解決のための取組み
5. 基盤整備事業 ①
6. 基盤整備事業 ②
7. まとめ

1. 農事組合法人川根美味しいたけの紹介

農事組合法人川根美味しいたけ

代表理事： 西原 睦実

構成員園地：10ha

自社園地： 18ha 標高0m~600m
(乗用型管理機導入)

製茶工場： かわね山処苑
(榛原郡川根本町地名)

荒茶製造ライン120K 2ライン
JGAP 有機認証

菌床センター (菌床製造、生シイタケ出荷場：
椎茸等の菌床製造量115万株床 (R4)
出荷量 生シイタケ53t キクラゲ5t)

従業員： 正社員10名、常勤パート・アルバイト22名

役員理事： 4名

2007年 「農事組合法人 かわね山処苑」を設立

2008年 「農事組合法人 川根美味しいたけ」を設立

2018年 「かわね山処苑」と「川根美味しいたけ」を統
合し、「川根美味しいたけ」に一本化



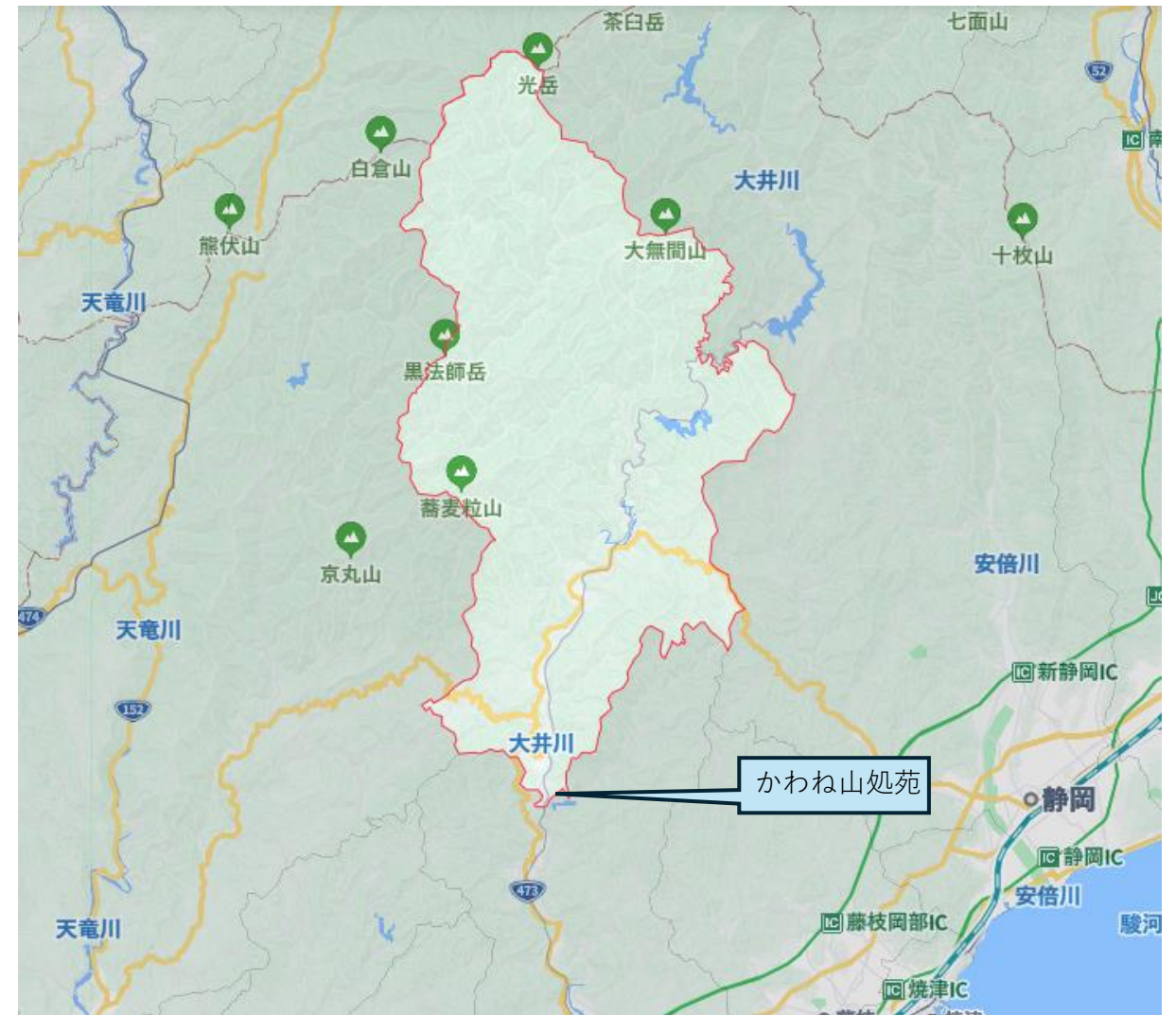
2. 経営概要

荒茶製造

荒茶製造	年5回の摘採 普通煎茶、ぐり茶、モガ茶の製造 有機茶、国内向け、台湾向け、EU向けに統一した 防除の規制
販売	荒茶の種類・数量を事前打合せを行い、蒸時間等 決定（20秒～120秒） ちよこっとネットでの販売

(参考) シイタケ等栽培

菌床製造	シイタケ、キクラゲ、なめこ、ひらたけ等各種菌 床を製造・培養
椎茸出荷	菌床 115万床（県内の組合員、自社分計） 主に生での出荷 出荷先は、関東がメイン 県内はイオン等に出荷 （当法人から独立した者と出荷先が重ならぬよう 関東を主にしている） 干しは食品材料・学校給食やネットでの販売



3. 地域の課題

課題 ①

(人材不足等)

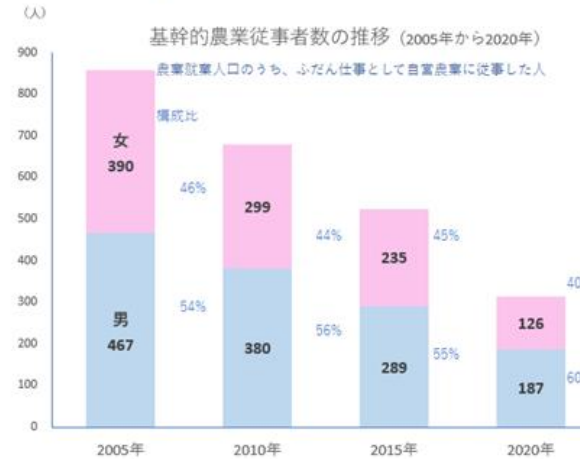
- ・ 茶価の低迷による茶農家の収入減少
- ・ 高齢化率が進み労働人口が減少
- ・ 増加する放棄茶園
- ・ 共同茶工場の製茶機械更新時期を迎え出資者の不足

課題 ②

(茶園の状況)

- ・ 茶畑は一つひとつの区画が小さく、傾斜地に分布
- ・ 園地の形、畝の方向も様々
- ・ 経営規模は全体的に小規模経営

川根本町



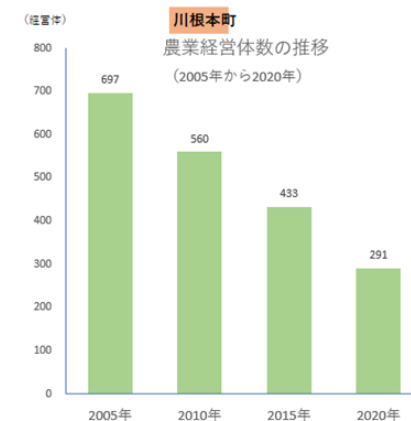
センサス	2005年	2010年	2015年	2020年	15年差	増減率
男	467	380	289	187	-280	-60%
女	390	299	235	126	-264	-68%
構成比(男)	54%	56%	55%	60%		
構成比(女)	46%	44%	45%	40%		



センサス	15歳-39歳	40歳-49歳	50歳-59歳	60歳-69歳	70歳-79歳	80歳以上
男	6	5	11	46	68	51
女	0	0	12	25	52	37
構成比(男)	3%	3%	6%	25%	36%	27%
構成比(女)	0%	0%	10%	20%	41%	29%

出典：農林業センサス

2020年は個人経営件、2015年以前は販売農家



センサス	2005年	2010年	2015年	2020年	15年差	増減率
経営体数	697	560	433	291	-406	-58%
増減率	-	-20%	-23%	-33%	-	-

出典：農林業センサス

4. 課題解決のための取組み

課題解決のために

- ・後継者の育成
- ・放棄茶園の受入先確保
- ・農地の集積

生産性を高め、所得を向上させる



- ・基盤整備を行い、生産効率の高い茶園へと改善する必要



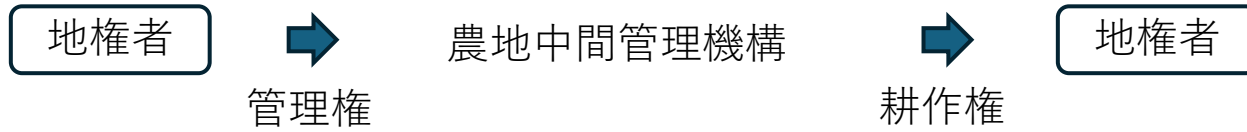
- ・県農林事務所、役場へ相談
- ・活用事業の検討
- ・地元の合意形成を行うための説明会開催



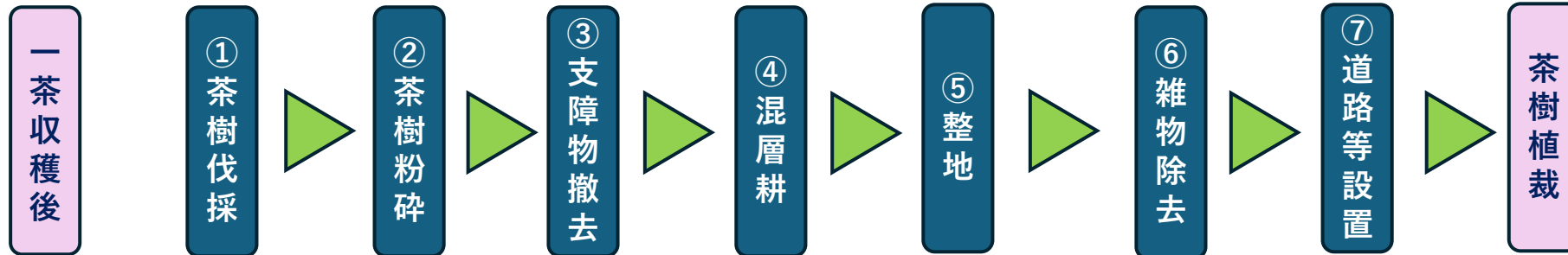
5. 基盤整備事業 ①

農地中間管理機構関連農地整備事業

地元負担もなく実施できることから当該事業を選択



区画整理工事スケジュール



6. 基盤整備事業 ②

基盤整備実施地区

下泉原地区

令和2年度事業採択

受益面積 7.0 ha

工期期間 令和2年度～6年度

担い手 3人

地権者 44人

作付品種 つゆひかり おくゆたか



メリット

収益を確保できる園地の実現

乗用管理機による労働生産性の向上

園内道路整備等による作業の利便性向上

時代のニーズに合った品種への転換

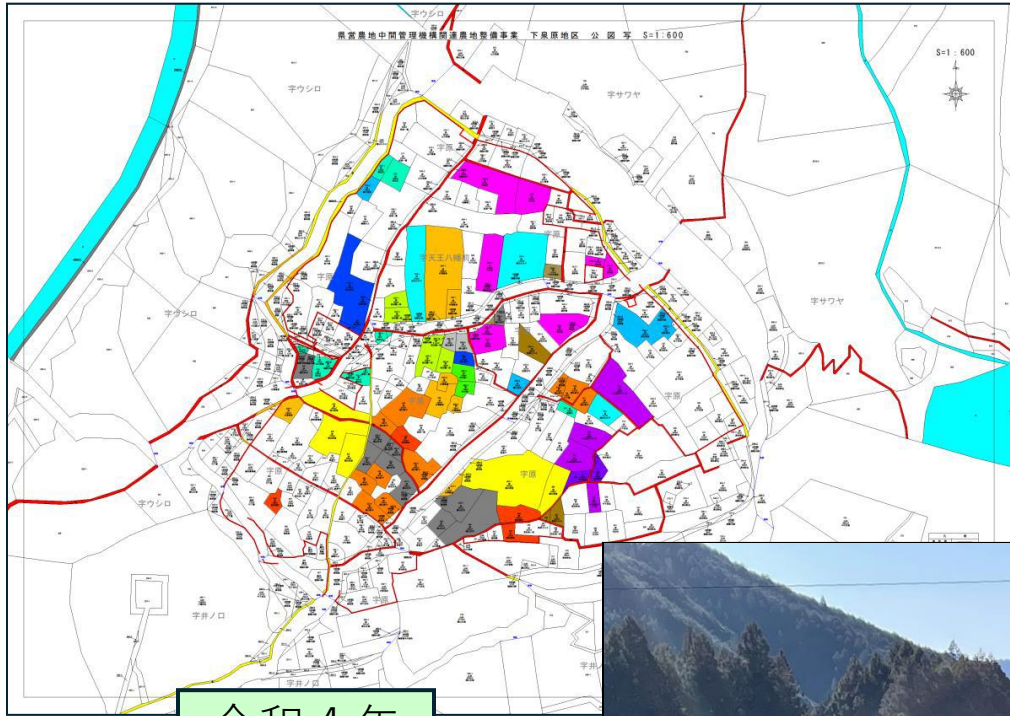
課題

基盤整備完了時期

農業者が希望する終了時期になっていない

未収益期間

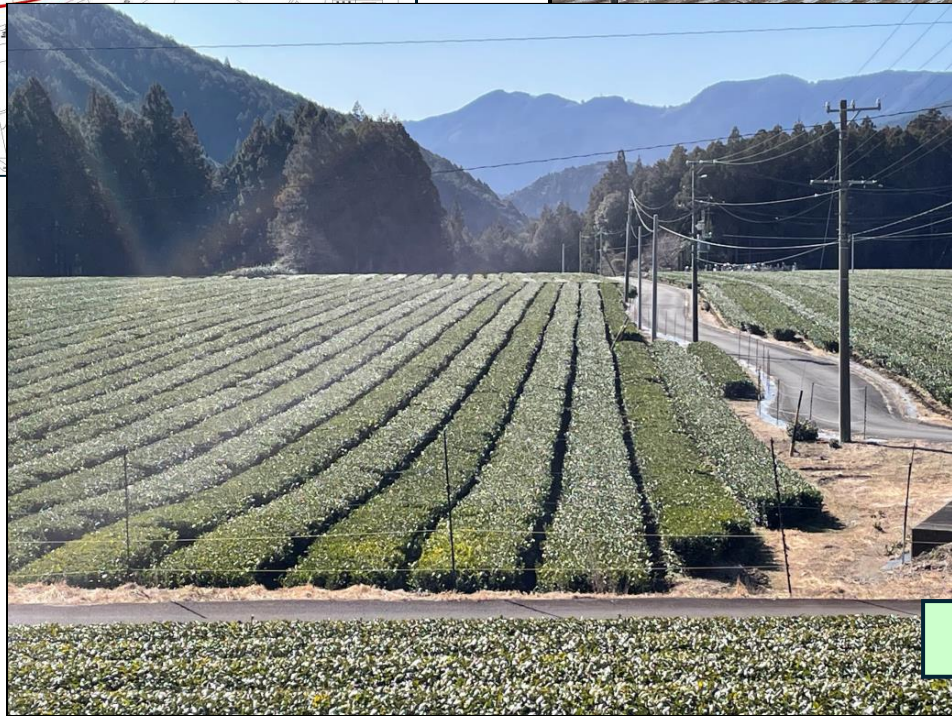
成園になるまでの5年間の収量確保



令和4年



令和5年



令和8年

7. まとめ

次世代につなぐ農業へ

就農時、「農地は子や孫からの借り物。次世代にきちんと引き渡す」ということの大切さを教わった

しかし、川根本町の現状は、

- ・ 共同茶工場の解散
- ・ 生葉提供農家の離農
- ・ 荒廃農地が増加

が進んでいる

そのため、地域農業を守り、次世代につなげるよう

- ・ 「農業生産法人美味しいたけ」が引受先となり農地集積、基盤整備を進め、荒廃農地発生を未然に防止する
(現在、地名地区において基盤整備実施中)
- ・ 基盤整備を行うことで、規模拡大、乗用型茶園管理機を導入し、経営の効率化を図るとともに作業し易い環境を整える

以上、取組むことで地域農業を維持発展させていく



ご清聴
ありがとうございました